

# 2023年10月期 第2四半期 決算説明会

2023年6月20日

 **クミアイ化学工業株式会社**

# 本日のアジェンダ

I. 事業環境	.....	3
II. 2023年10月期 第2四半期実績	.....	5
III. 2023年10月期 業績予想	.....	14
IV. 重点施策の実施状況	.....	23
V. サステナビリティ経営への取り組み	.....	30
VI. 質疑応答		

# 事業環境動向

## ロシア・ウクライナ紛争の長期化

直接的な取引は少ないものの、原材料費や製造費などのコストが増加  
コムギ等の生産地であるため世界の穀物価格や作付状況への影響を注視

## 原油・ナフサ価格

ピークアウトしこれらの価格は落ち着きつつあるものの、当社事業における  
原材料コストは依然高水準

## 対ドル為替動向

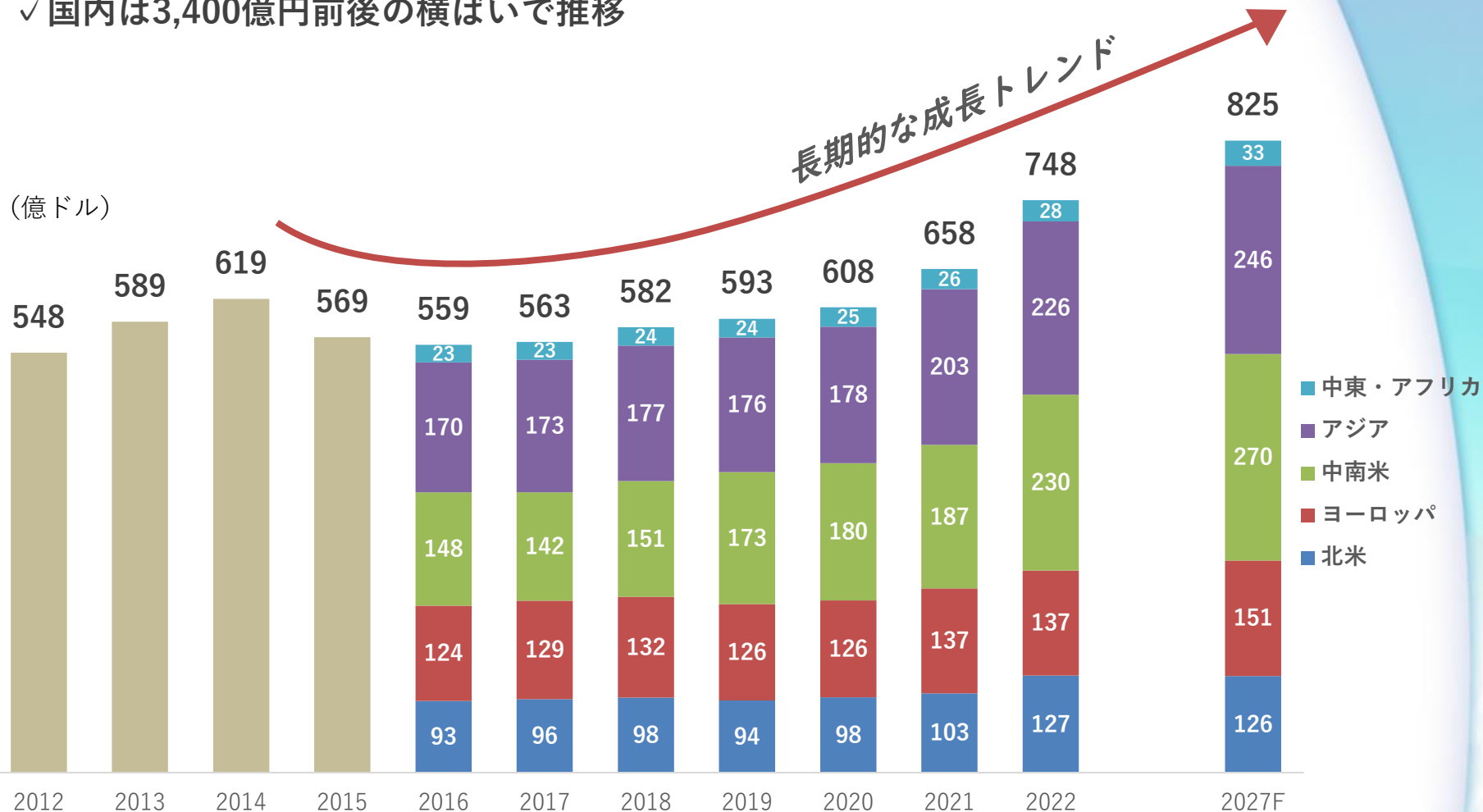
当第2四半期では前年同期対比で円安となったことにより、調達価格等の増加要因  
となったが、コスト増以上に売上や利益を押し上げ

## 穀物市況

世界人口の増加やコロナ禍等、複合的な要因を背景に2020年頃から上昇傾向  
それに伴い、農薬市場も拡大しており、継続的に成長する見込み

# 農薬市場の動向

- ✓ 2022年は穀物価格・農薬価格の上昇により過去約20年で最も高い成長率
- ✓ 国内は3,400億円前後の横ばいで推移



- I. 事業環境
- II. 2023年10月期 第2四半期実績**
- III. 2023年10月期 業績予想
- IV. 重点施策の実施状況
- V. サステナビリティ経営への取り組み
- VI. 質疑応答

# 2023年10月期 第2四半期 実績

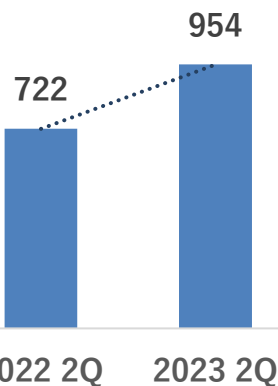
(億円)	2022 2Q 実績	2023 2Q 実績	前年比	増減率	2023 2Q 当初予想	当初予想比	増減率
売上高	722	954	+232	+32%	924	+30	+3%
売上総利益	179	233	+53	+30%	-	-	-
営業利益	79	127	+48	+61%	101	+26	+25%
経常利益	114	135	+21	+18%	124	+11	+9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	80	102	+23	+29%	90	+12	+14%

参考：平均レート    ¥/ドル=117    ¥/ドル=135  
 ¥/ユーロ=130    ¥/ユーロ=143

¥/ドル=135  
 ¥/ユーロ=142

## 売上高

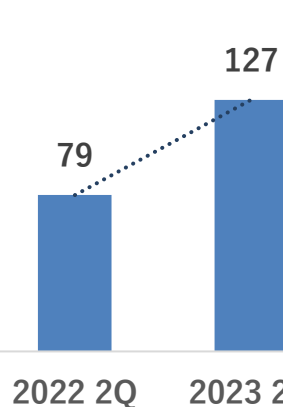
前年同期比 +232億円



- (+) アクシーブの大幅増収 +216億円
- (+) 価格転嫁の実施
- (+) 円安による押し上げ
- (-) 化成品事業の減収

## 営業利益

前年同期比 +48億円

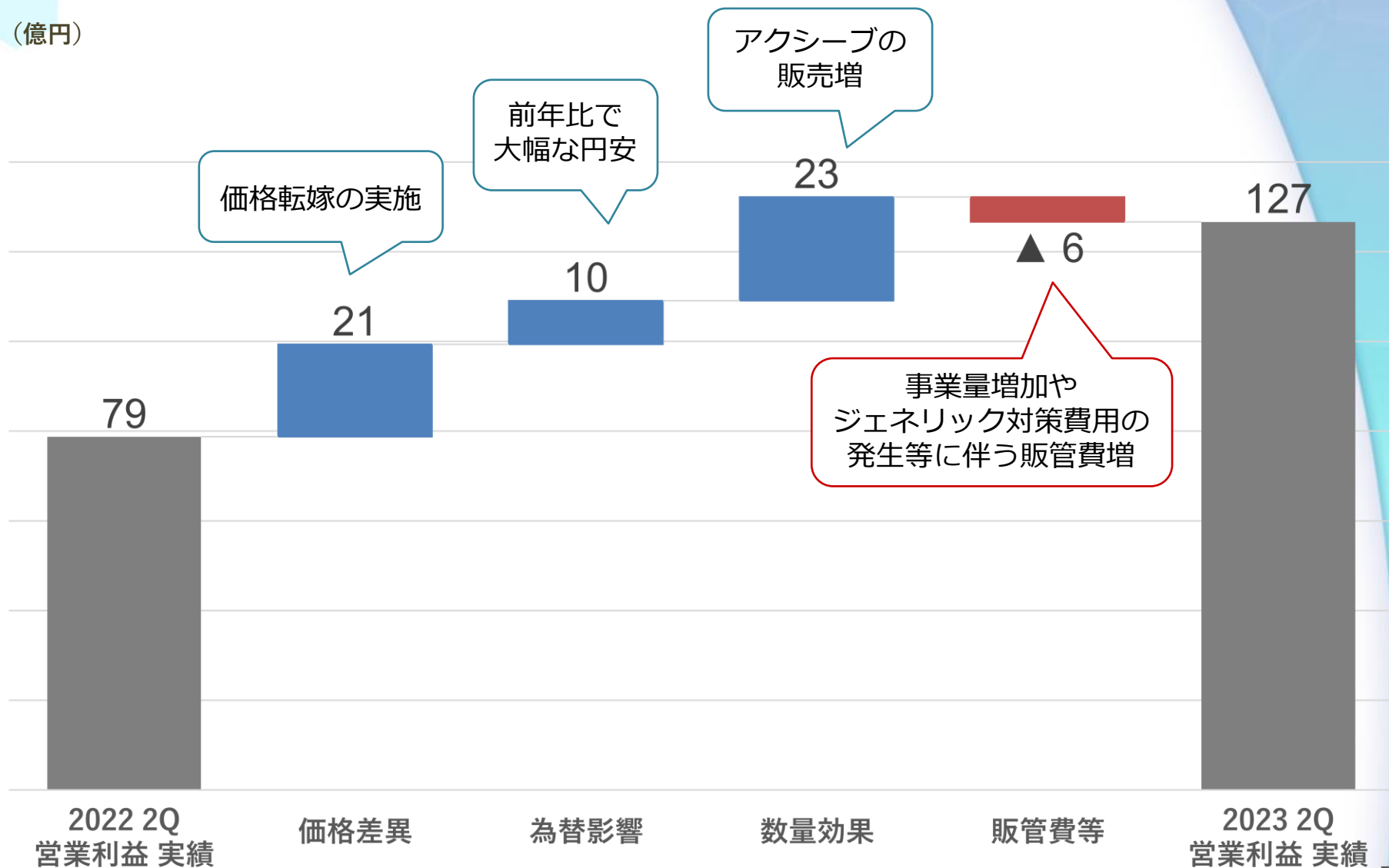


- (+) アクシーブ 出荷増
- (+) 価格転嫁の実施
- (+) 円安による押し上げ
- (-) 原材料費の上昇
- (-) 販管費の増加



# 営業利益増減要因

(億円)



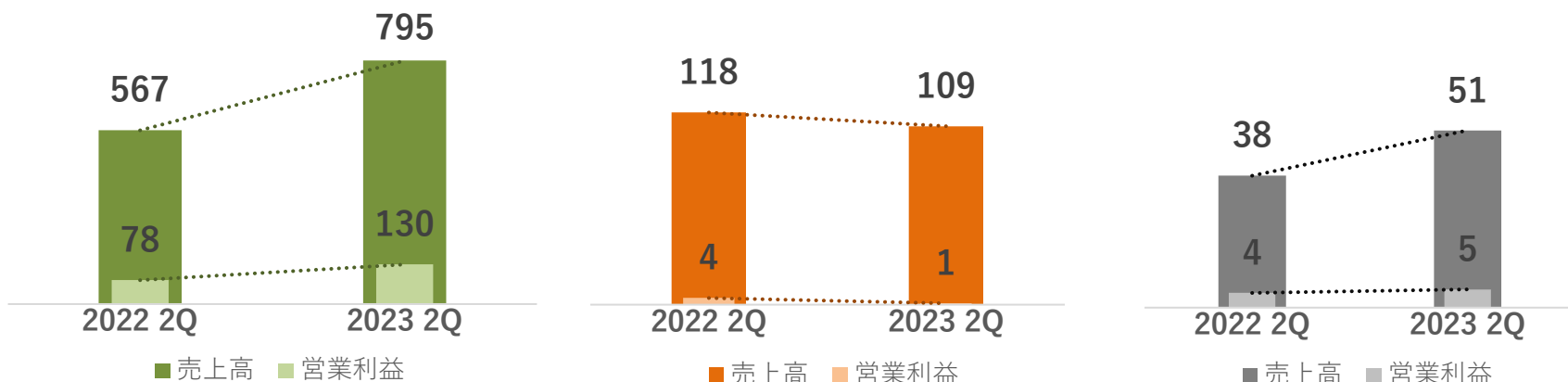
# セグメント別

(億円)	2022 2Q 実績	2023 2Q 実績	前年比	増減率
<b>売上高</b>	<b>722</b>	<b>954</b>	<b>+ 232</b>	<b>+ 32%</b>
農薬及び農業関連	567	795	+ 228	+ 40%
化成品	118	109	△8	△7%
その他	38	51	+ 13	+ 34%
<b>営業利益</b>	<b>79</b>	<b>127</b>	<b>+ 48</b>	<b>+ 61%</b>
農薬及び農業関連	78	130	+ 51	+ 66%
化成品	4	1	△3	△77%
その他	4	5	+ 1	+ 23%
(調整額)	△8	△9	△1	-

農薬及び農業関連

化成品

その他





# 農薬及び農業関連事業

## 国内

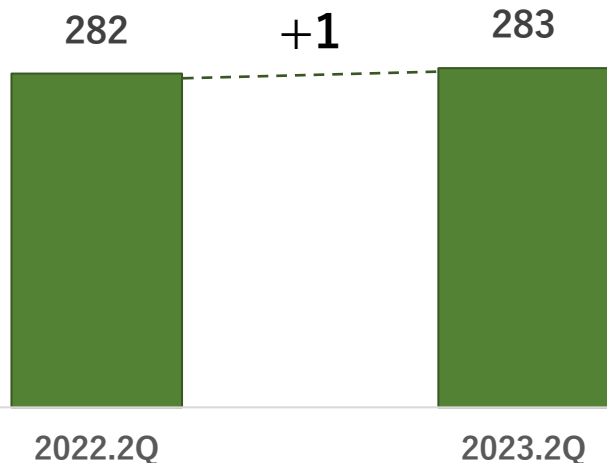
エフィーダ剤やディザルタ剤の販売は順調であったが、販売先の在庫調整により一部品目の出荷が減少し、前年並みで推移

## 海外

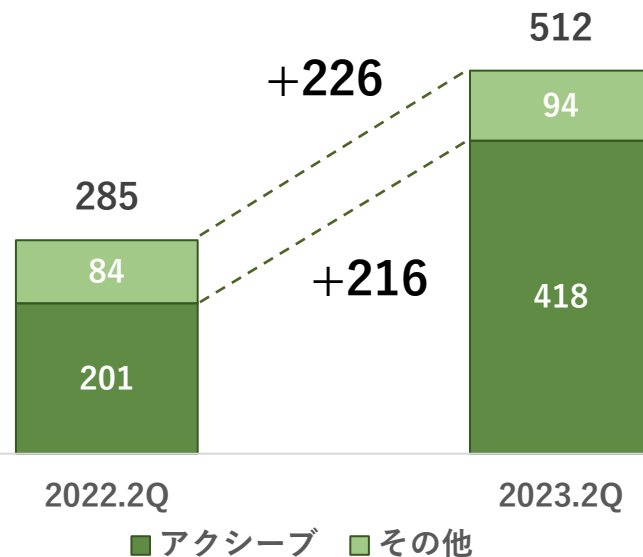
米国向けアクシーブの出荷が大幅に増加  
前年同期比では値上げおよび円安傾向により売上を押し上げ

(億円)

国内売上高



海外売上高



# 化成品事業

## 塩素化

中国・米国の景気減退により一部のクロロキシレン系製品の需要減

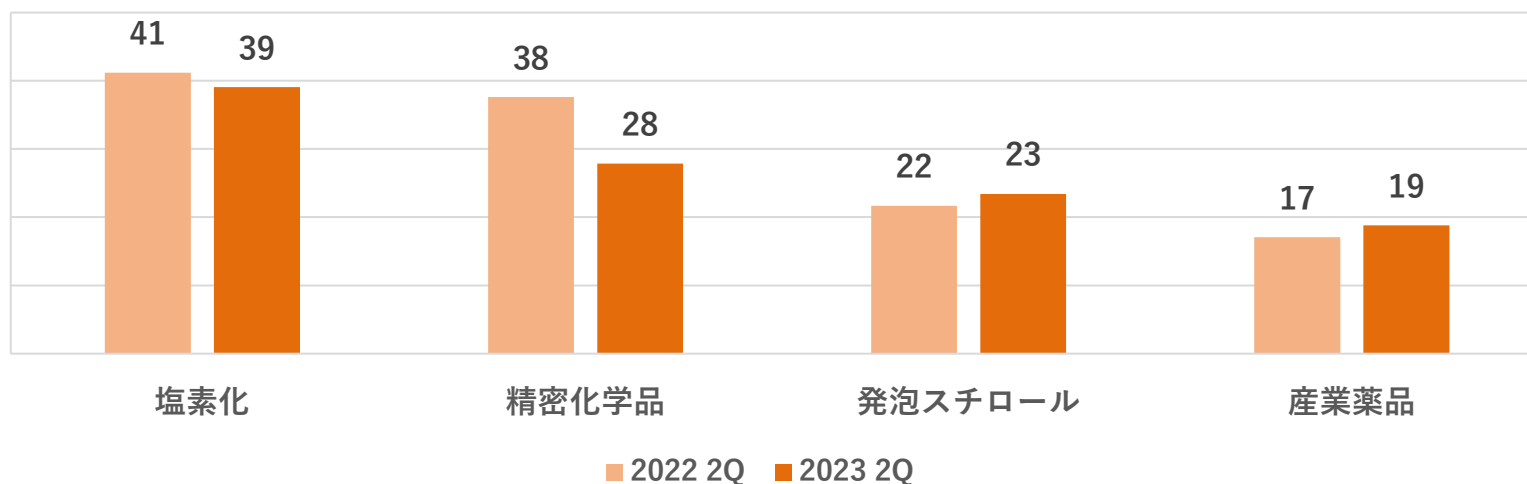
## 精密化学品

中国・米国の景気減退によりビスマレイミド類の需要減  
 半導体市場は一部分野を除いて市場全体で在庫調整

## 発泡スチロール・産業用薬品

前年比微増で推移

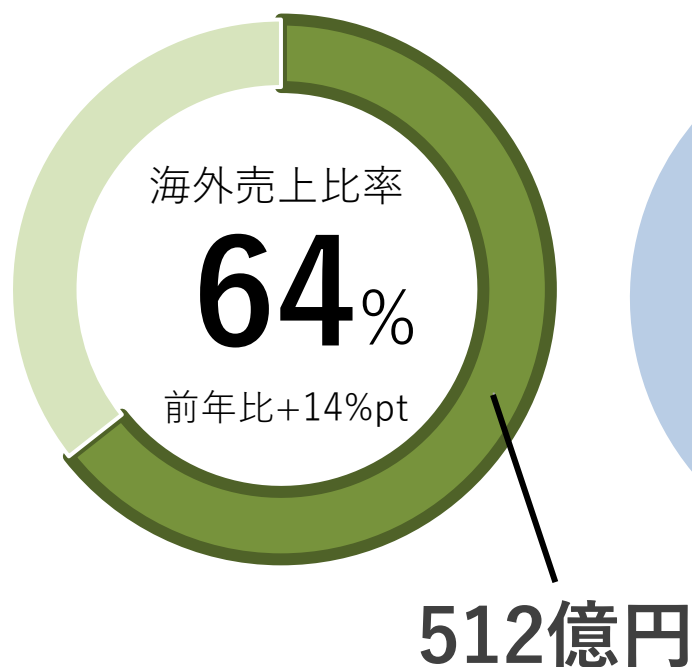
(億円) 売上高推移



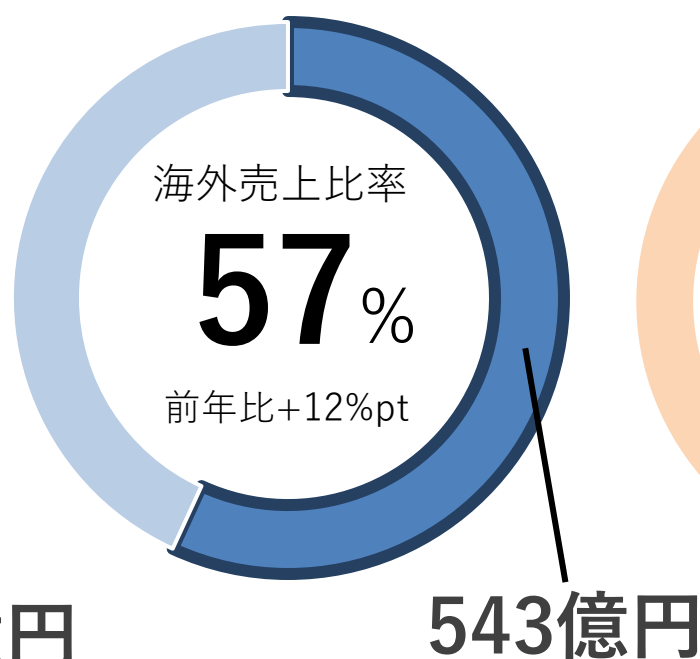
# 海外売上高・比率

## 2023年10月期 第2四半期 海外売上

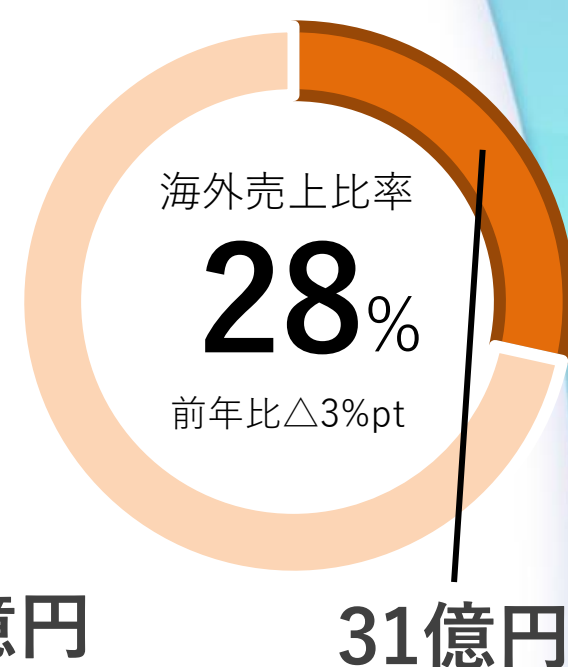
### 農薬及び農業関連



### 全体

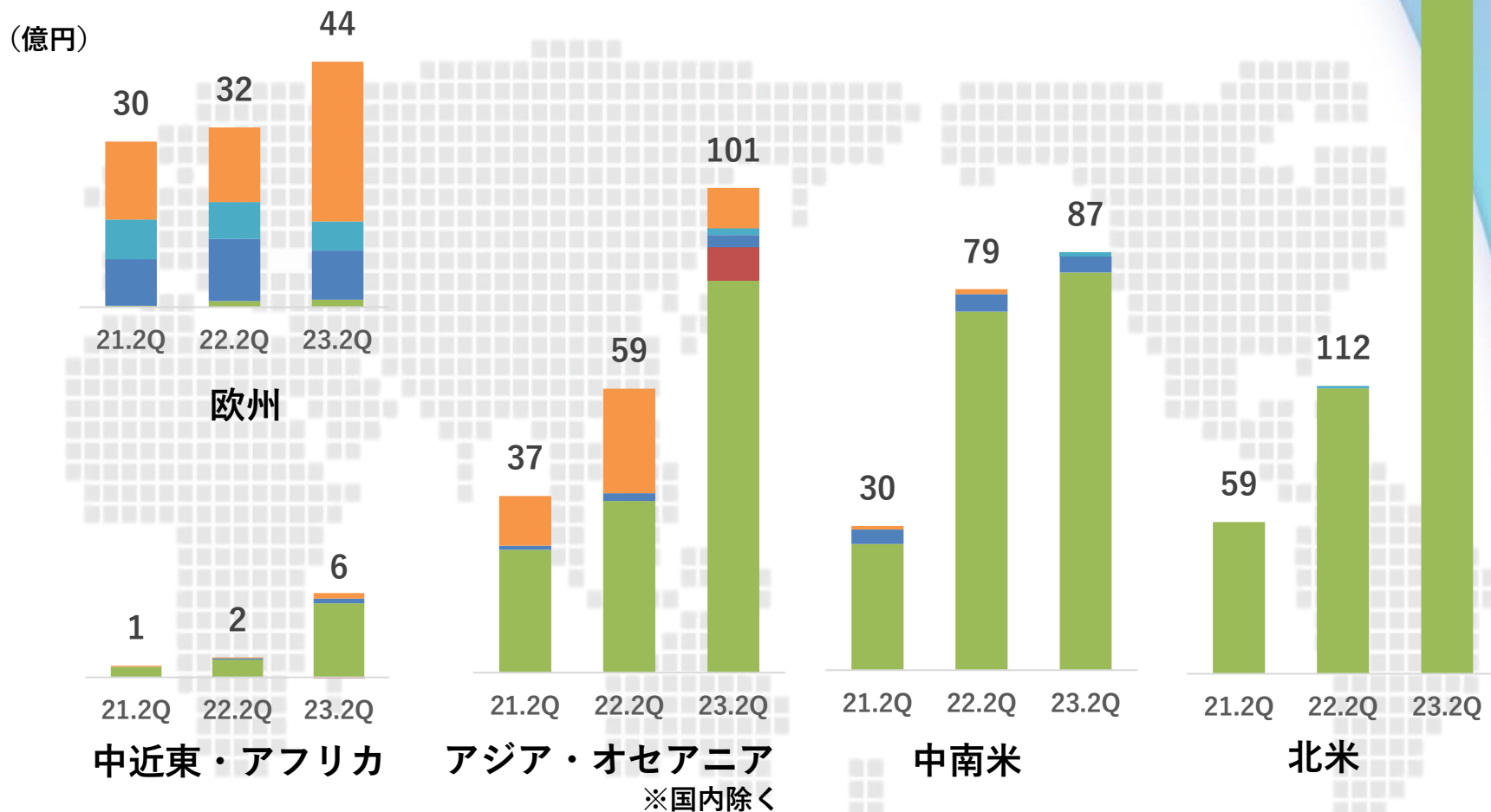


### 化成品



# 地域別・用途別 売上高

すべての地域において2年連続の増収



■ 除草剤   
 ■ 殺虫剤   
 ■ 殺菌剤   
 ■ 植物成長調整剤   
 ■ その他

# 2023年10月期 第2四半期 総括

## 事業全体

売上高 **954**億円 (前年比+232億円)

営業利益 **127**億円 (前年比 +48億円)

経常利益 **135**億円 (前年比 +21億円)

- ✓ 原材料価格は依然として上昇傾向であるものの価格転嫁を実施
- ✓ 前年比で大幅な円安で推移し、売上・利益を押し上げ
- ✓ 為替差損を計上した一方、持分法投資利益が増加

## 農薬及び農業関連事業

売上高 **795**億円 (前年比+228億円)

営業利益 **130**億円 (前年比 +51億円)

- ✓ アクシーブ 販売好調 前年同期比 +216億円
- ✓ エフィーダ・ディザルタ 販売好調

## 化成品事業

売上高 **109**億円 (前年比△8億円)

営業利益 **1**億円 (前年比△3億円)

- ✓ 中国・米国の景気減速によりビスマレイミド類  
および一部のクロロキシレン系化学品の出荷減
- ✓ 半導体市場での在庫調整による需要減

## その他事業

売上高 **51**億円 (前年比+13億円)

営業利益 **5**億円 (前年比 +1億円)

- ✓ 印刷事業・物流事業が堅調
- ✓ 建設事業が前期からの繰越工事の進捗により増収

- I. 事業環境
- II. 2023年10月期 第2四半期実績
- III. 2023年10月期 業績予想**
- IV. 重点施策の実施状況
- V. サステナビリティ経営への取り組み
- VI. 質疑応答

# 2023年10月期 通期見通し（当初予想比）

## 6月6日に業績予想の修正を発表

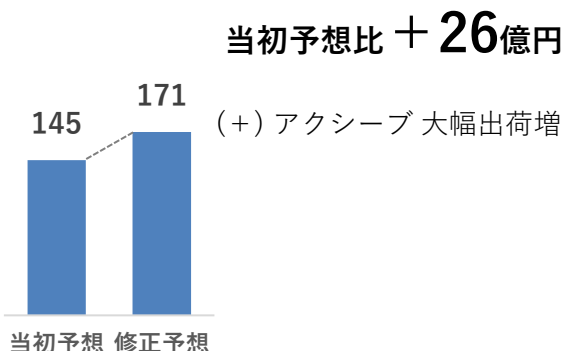
(億円)	2023 当初予想 (12/14発表)	2023 修正予想 (6/6発表)	当初予想比	増減率
売上高	1,679	1,690	+11	+1%
農薬及び農業関連	1,345	1,359	+14	+1%
化成品	245	240	△5	△2%
その他	89	90	+1	+1%
営業利益	145	171	+26	+18%
経常利益	193	215	+22	+11%
親会社株主に帰属する当期純利益	141	167	+26	+18%

参考：平均レート    ¥/ドル=135    ¥/ドル=130  
 ¥/ユーロ=142    ¥/ユーロ=140

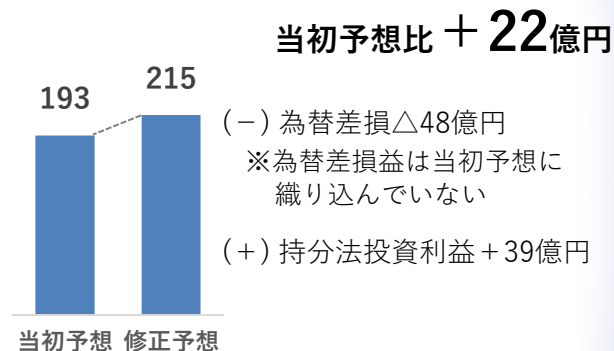
### 売上高



### 営業利益



### 経常利益



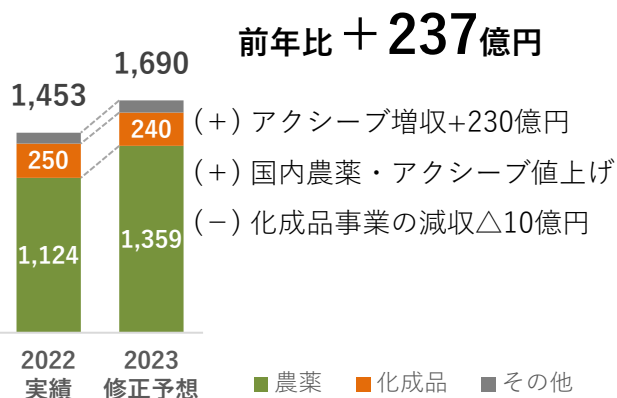
# 2023年10月期 通期見通し (前年比)

## 6月6日に業績予想の修正を発表

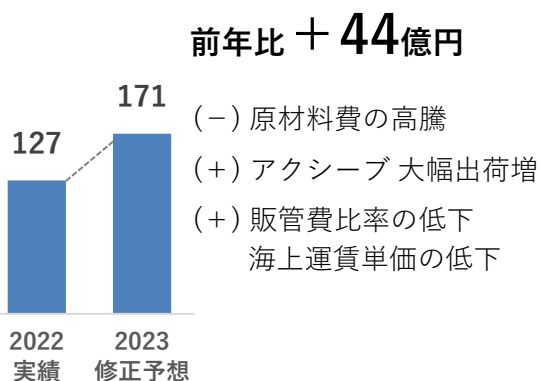
(億円)	2022 実績	2023 修正予想 (6/6発表)	前年比	増減率
<b>売上高</b>	<b>1,453</b>	<b>1,690</b>	<b>+237</b>	<b>+16%</b>
農薬及び農業関連	1,124	1,359	+235	+21%
化成品	250	240	△10	△4%
その他	79	90	+11	+14%
<b>営業利益</b>	<b>127</b>	<b>171</b>	<b>+44</b>	<b>+35%</b>
<b>経常利益</b>	<b>236</b>	<b>215</b>	<b>△21</b>	<b>△9%</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>163</b>	<b>167</b>	<b>+4</b>	<b>+2%</b>

参考：平均レート    ¥/ドル=129    ¥/ドル=130  
 ¥/ユーロ=135    ¥/ユーロ=140

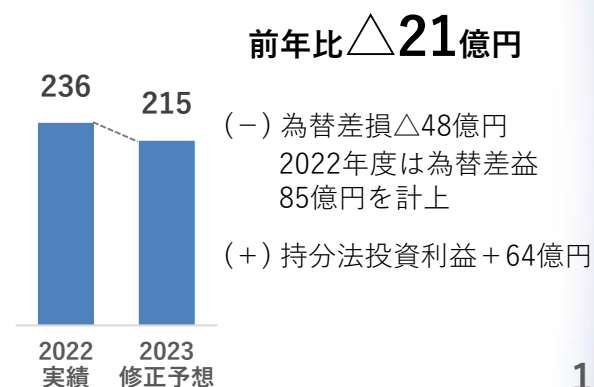
### 売上高



### 営業利益



### 経常利益





# 2023年10月期 通期見通し（上半期・下半期）

## 事業の 季節性

国内向け農薬の大部分は4月までに出荷されることから売上が上半期に偏るが、販管費については、人件費などが毎四半期に同程度ずつ発生することに加え、期末には試験研究費の支払いが多いことから、下半期の利益は上半期に比べ少なくなる。

## 上半期

(億円)	当初予想 (12/14発表)	2023 2Q 実績	前年比
売上高	924	<b>954</b>	+30
営業利益	101	<b>127</b>	+26
経常利益	124	<b>135</b>	+11
親会社株主に帰属 する四半期純利益	90	<b>102</b>	+12

### < 増減要因 >

- (+) アクシーブの出荷増・値上げによる増収 +35億円
  - (+) 原価が想定よりも下振れ
- 為替は当初予想・上半期ともに¥/\$=135で推移

## 下半期

(億円)	当初予想 (12/14発表)	修正予想 (6/6発表)	前年比
売上高	755	<b>736</b>	△19
営業利益	44	<b>44</b>	+0
経常利益	69	<b>80</b>	+11
親会社株主に帰属 する四半期純利益	51	<b>65</b>	+14

### < 増減要因 >

- (+) アクシーブの出荷増による増収 +10億円
- (+) 原価が想定よりも下振れ
- (-) 受託製造の減収 △15億円
- (-) 販売先の在庫調整により国内農薬の出荷減 △12億円
- (-) 円高想定（当初¥/\$=135、修正予想¥/\$=130）

# 2023年10月期 通期見通し (農薬及び農業関連)

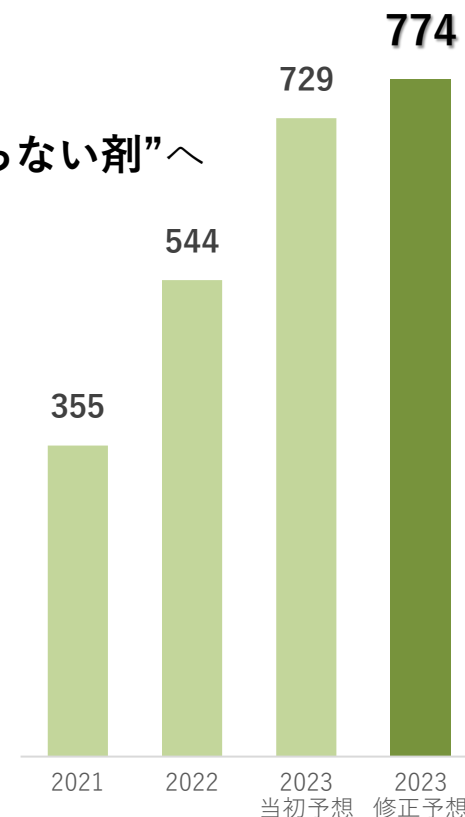
## アクシーブ

### 販売好調の背景

- 除草剤抵抗性雑草の拡大
- 各国でアクシーブの有効性の高さが浸透し、“なくてはならない剤”へ
- 穀物市況の高止まりにより農家の購買力が向上
- 安定的な生産・供給を実現

### 今後の動向・事業環境予測

- 主要販売国におけるアクシーブの高い需要は続く見込み
- ジェネリックの市場参入
- ブラジル農薬市場全体で在庫調整
- アルゼンチンでの外貨不足に起因する一部輸入制限



# 2023年10月期 通期見通し（農薬及び農業関連）

## エフィーダ（除草剤）

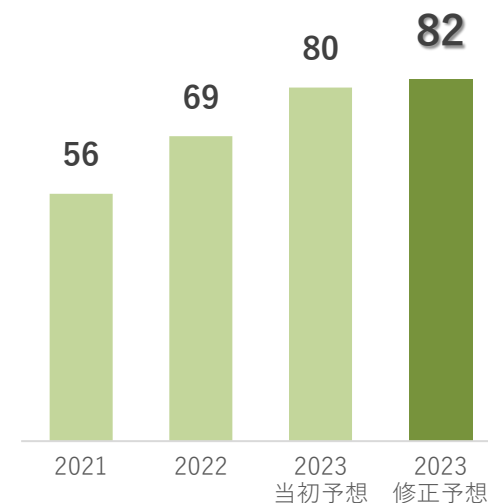
■ 効果の高さとイネへの安全性が評価され販売好調

■ 新規混合剤を継続的に開発

今期より国内で「ラオウ」「アカツキ」の販売を開始

■ 海外開発を推進

韓国で販売開始済み、欧州にてコムギ・水稲用除草剤として登録申請



## ディザルタ（水稲用殺菌剤）

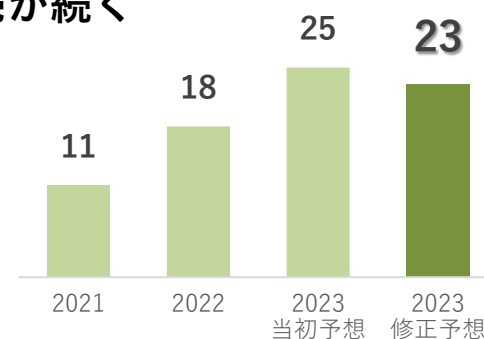
■ 安定した効果が評価され、販売3年目を迎え順調な販売が続く

■ 新規混合剤を継続的に開発

今期より国内で「ブーンバズ」の販売を開始

■ 海外開発を推進

前期から韓国向け出荷を開始





# 2023年10月期 通期見通し (化成品)

## 塩素化

値上げおよびクロロトルエン系製品の販売増による増収  
中国・米国の景気減退により一部のクロロキシレン系製品の需要減

## 精密化学品

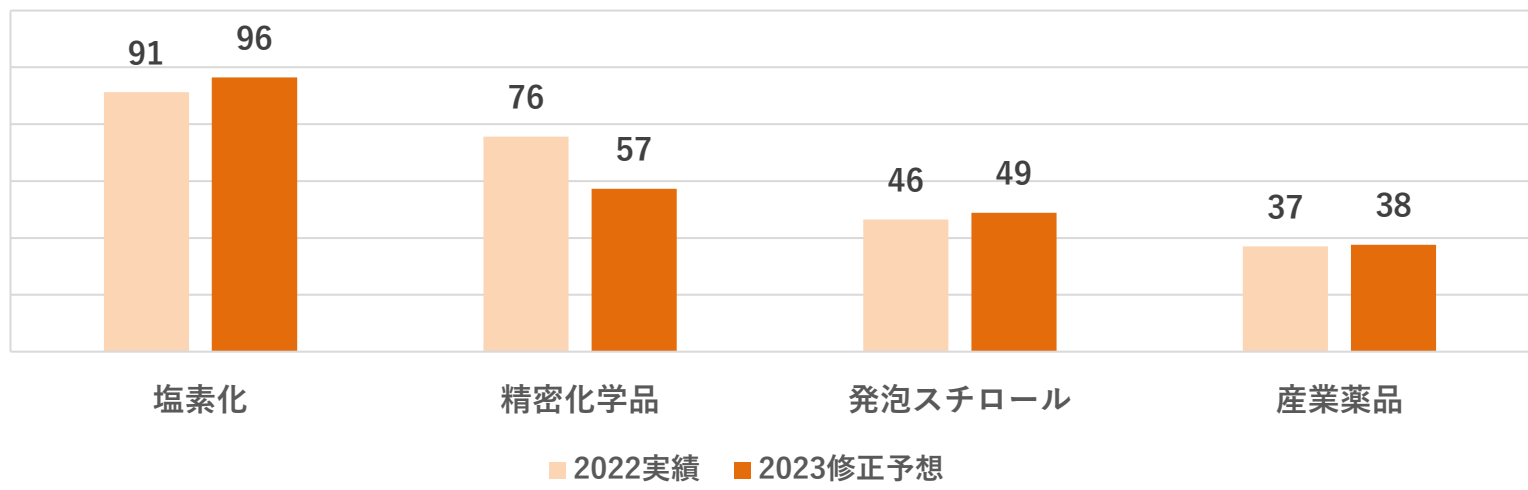
中国・米国の景気減退によりビスマレイミド類の需要減  
半導体市場は一部分野を除いて市場全体で在庫調整

## 発泡スチロール・産業用薬品

前年並みで推移

(億円)

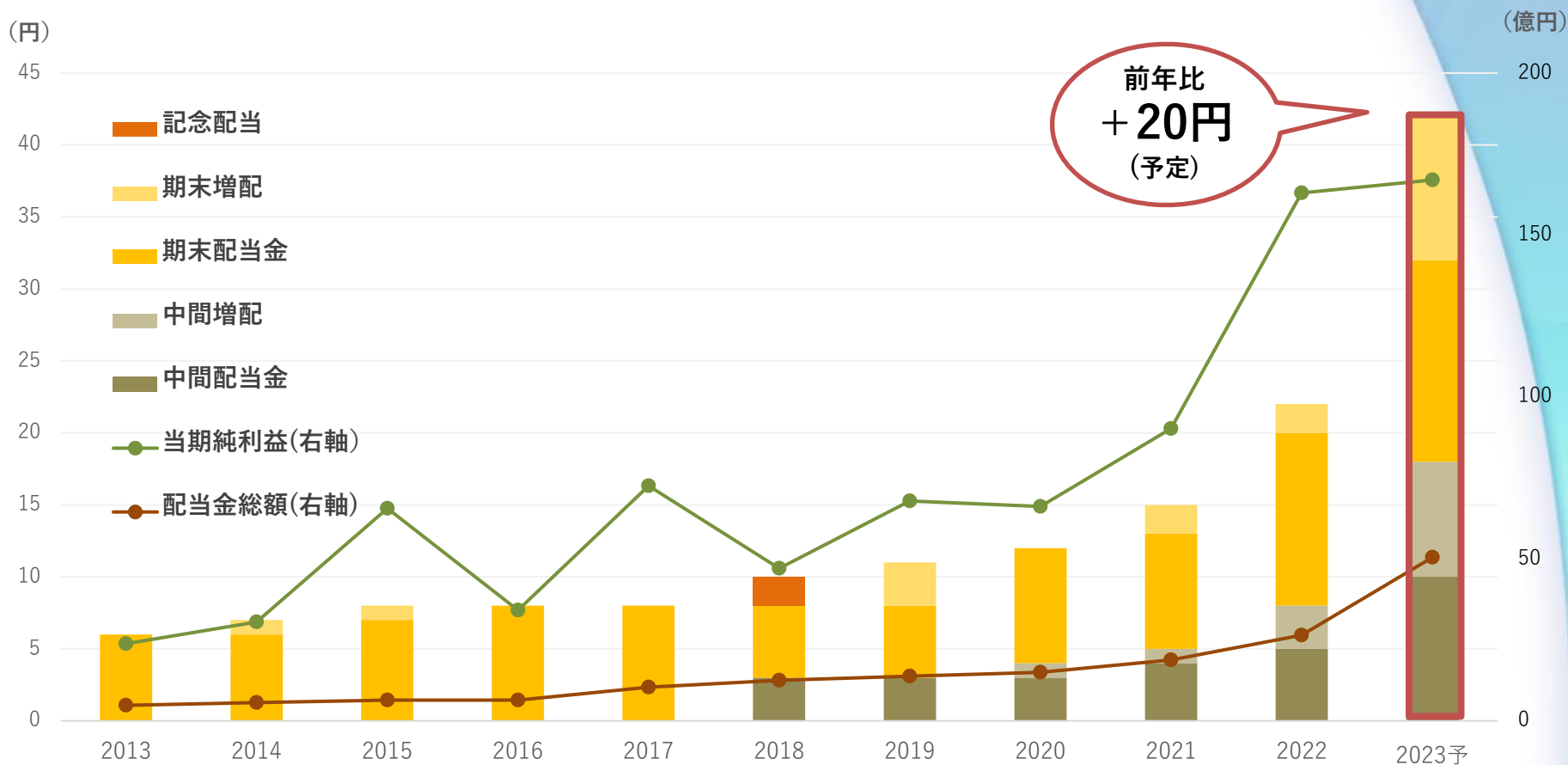
### 売上高推移



# 株主還元施策



中間配当18円(前期実績から10円増配) + 期末配当24円(10円増配) = **年間配当42円(20円増配)予定**



次期中期経営計画において、**より株主の皆様が目線に立った株主還元と社内留保および財務健全性の維持に関する基本的な考え方**を開示予定

# 研究開発費・設備投資・減価償却費

12月14日の業績予想から変更なし

## 研究開発費

2022年度実績 **51**億円 → 2023年度計画 **59**億円

(増加要因) 研究開発部門の人員費増、研究開発関連の出張増

## 設備投資

2022年度実績 **96**億円 → 2023年度計画 **88**億円

(減少要因) 2022年度に着工した新研究所の建設費用の大部分を計上

## 減価償却費

2022年度実績 **42**億円 → 2023年度計画 **47**億円

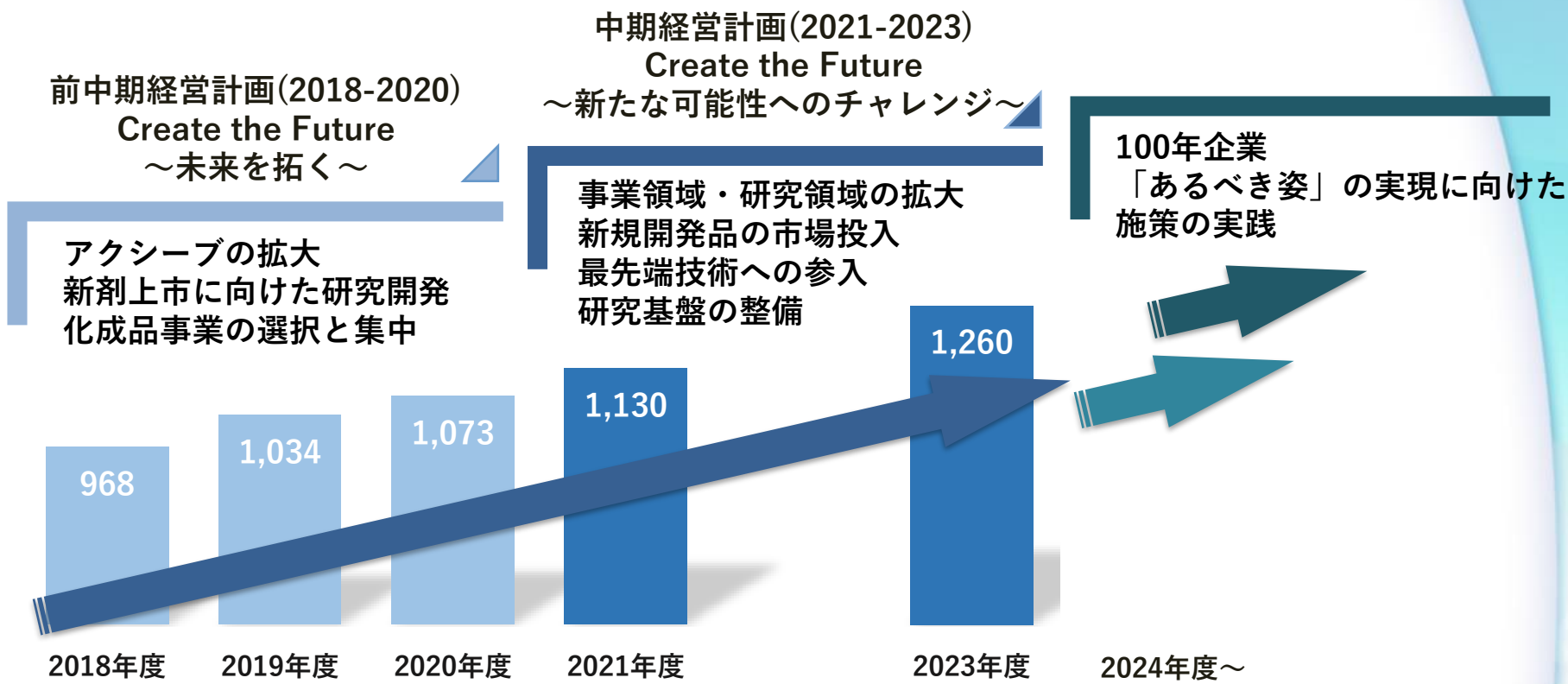
(増加要因) 化成品プラントの新設、老朽化設備の更新等に伴う増加

- I. 事業環境
- II. 2023年10月期 第2四半期実績
- III. 2023年10月期 業績予想
- IV. 重点施策の実施状況**
- V. サステナビリティ経営への取り組み
- VI. 質疑応答

# 中期経営計画（2021～2023）概要

## クミアイ化学グループの「あるべき姿」

独自技術で豊かなくらしを支え、自然と調和した社会の持続的発展に貢献する  
フレキシブルで存在感のある企業グループ





# 重要方針・重点施策

重要方針	重点施策
<p><b>研究領域、事業領域の拡大</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">2 <small>熱熱をゼロに</small> </div> <div style="text-align: center;">9 <small>産業と技術革新の基盤をつくろう</small> </div> <div style="text-align: center;">11 <small>住み続けられるまちづくりを</small> </div> <div style="text-align: center;">12 <small>つくる責任 つかう責任</small> </div> <div style="text-align: center;">13 <small>気候変動に具体的な対策を</small> </div> <div style="text-align: center;">15 <small>陸の豊かさも守ろう</small> </div> </div>	<p>革新的な技術開発による研究領域の拡大                      新規事業の開拓、新技術の導入による事業領域の拡大                      成長戦略の推進による既存事業の拡大</p>
<p><b>販売ルートが多様性確保</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">2 <small>熱熱をゼロに</small> </div> <div style="text-align: center;">9 <small>産業と技術革新の基盤をつくろう</small> </div> <div style="text-align: center;">12 <small>つくる責任 つかう責任</small> </div> <div style="text-align: center;">15 <small>陸の豊かさも守ろう</small> </div> </div>	<p>海外での販売ルートが多様化                      新規アイテム・受託テーマの創出による新規販売チャネルの開拓</p>
<p><b>コスト競争力の確保</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">9 <small>産業と技術革新の基盤をつくろう</small> </div> <div style="text-align: center;">12 <small>つくる責任 つかう責任</small> </div> <div style="text-align: center;">15 <small>陸の豊かさも守ろう</small> </div> </div>	<p>製品原価低減に向けた生産体制、調達の最適化                      生産技術の改善、生産プロセスの自動化による生産性・品質向上とコスト削減</p>
<p><b>ESGを重視した企業活動</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">9 <small>産業と技術革新の基盤をつくろう</small> </div> <div style="text-align: center;">12 <small>つくる責任 つかう責任</small> </div> <div style="text-align: center;">13 <small>気候変動に具体的な対策を</small> </div> <div style="text-align: center;">15 <small>陸の豊かさも守ろう</small> </div> <div style="text-align: center;">17 <small>パートナーシップで目標を達成しよう</small> </div> </div>	<p>環境負荷の低減を図った製品の開発、生産体制の構築                      会社情報の積極的な発信                      グループコンプライアンス体制の強化と推進                      内部統制システムの的確な整備、運用                      ステークホルダーへの農薬の必要性・安全性に関する啓発活動の立案と実践</p>

# 重点施策の実施状況 (研究領域・事業領域の拡大)

当社事業の主軸であるアクシーブビジネスの最大化に向け取り組む



これまで：**想定を超えるペースで成長**

今後の事業リスク：**ジェネリック品の参入**

- ・ 豪州にてジェネリック品の流通を確認
- ・ アルゼンチンで市場参入の動き
- ・ 米国では2026年以降、ブラジルでは2031年以降の市場参入を予想

**最大限のジェネリック対策を実施**

01. 普及活動の強化
02. **混合剤開発の推進**
03. 知財対策

## 直近の混合剤開発ラインナップ

### ■米国…ダイズ・トウモロコシ向け

2020年 2剤上市(Authority®Edge, Perpetuo™)

2023年 1剤上市(Maverick™)、1剤上市予定

2024年 1剤上市予定

### ■豪州…コムギ・オオムギ向け

2022年 1剤上市(Mateno® Complete)

### ■ブラジル…ダイズ・トウモロコシ・サトウキビ向け

2020年 2剤上市

2021年 1剤上市

2024年 1剤上市予定

**このほかにも  
 世界各国で多様な作物を対象とした  
 アクシーブ混合剤を開発推進中**

# 重点施策の実施状況（研究領域・事業領域の拡大）

## 新剤の開発

### ■ フルペンチオフェノックス（殺虫剤）

抵抗性が発達しているダニに対しても効果を有する新規作用性の殺ダニ剤として開発中。2023年5月に登録申請済み。

→優先審査を受けられることとなり、早期登録取得を見込む

### ■ エコアーク（微生物農薬）

難防除病害であるブドウ根頭がん腫病に効果を示す世界で唯一の農薬として開発中。2022年12月に登録申請済み。

## 新技術の開発

### ■ 微生物を活用したバイオスティミュラントの開発

### ■ 農地から発生するメタンガスの発生抑制技術（国際特許出願済み）

メタン生成阻害剤を発見 →実用化に向けた検討を推進中

# 重点施策の実施状況 ( 研究領域・事業領域の拡大 ) コスト競争力の確保

## 化成品マルチプラントの建設

事業環境  
見通し

電子材料の需要はますます拡大する見通し

- ・ 脱炭素社会推進に向けた電気自動車の普及
- ・ 5G,6G等の次世代通信実現やデジタル化の拡大



目的

### 現状

電子材料向け品目は生産能力を超える需要があり一部は外部委託生産にて対応

生産能力増強により内製化を推進  
事業拡大・利益性の改善を図る

設備投資  
概要

所在地 : 静岡県磐田市 (ケイ・アイ化成)  
 総投資額 : 約30億円 (予定)  
 着工 : 2023年5月  
 竣工 : 2025年1月



# 重点施策の実施状況 (研究領域、事業領域の拡大)

## 新化学研究所(ShIP)が完成 (2023年4月)

静岡県にある3つの研究センターを統合

創薬研究センター (磐田市)

製剤技術研究センター (静岡市)

プロセス化学研究センター (富士市)



**Shimizu Innovation Park / ShIP (静岡市清水区)**

当社の最大の強みである**研究開発力**のさらなる強化を図る

- 研究センター集約による研究開発の**効率化**
- 異分野研究施設の統合による**イノベーション創出**の促進
- 新規事業の創出に向けた**新技術開発**



- I. 事業環境
- II. 2023年10月期 第2四半期実績
- III. 2023年10月期 業績予想
- IV. 重点施策の実施状況
- V. サステナビリティ経営への取り組み**
- VI. 質疑応答



# 統合報告書の発行

## 2023年4月に当社グループ初の統合報告書を発行\*

\*英語版は2023年6月末にコーポレートサイトにて開示予定

中長期的な価値創造に向けた考え方や取り組みについて  
財務・非財務両方の観点から情報開示

### Contents

- ・ トップメッセージ
- ・ 財務戦略
- ・ 価値創造プロセス
- ・ アクシープ特集
- ・ マテリアリティ
- ・ サステナビリティへの取り組み など

**積極的な情報発信**を通じて

ステークホルダーの皆様との対話を図る



<https://ir.kumiai-chem.co.jp/ja/library/csr.html>

# マテリアリティへの取り組み



**企業経営の基盤**

- コーポレートガバナンスの高度化
- コンプライアンスの推進
- リスクマネジメントの強化
- ステークホルダーとの対話



# マテリアリティへの取り組み（環境）

## 気候変動・環境負荷の低減



当社グループ7社の温室効果ガス排出量(Scope1・2)

**2030年までに2019年度比30%減**

目標達成に向けた着実な取り組み

重油からLPガスへの  
切り替え



グリーン電気への  
切り替え



太陽光パネルの  
設置



# マテリアリティへの取り組み（社会）

## 人権の尊重



クミアイ化学グループ人権に関する基本方針を策定

基本方針に基づき人権デュー・デリジェンスを営業・生産部門にて実施

- 当社グループのサプライチェーン川下における人権リスクは**想定されない**
- 今後 サプライチェーン川上にいる主要サプライヤーを対象にアンケート調査を実施

## ダイバーシティ & インクルージョンの推進

次世代育成支援の推進

男性育児休業取得率  
2022年度  
実績 **24.1%**

**2026年**までに  
**100%**

女性の活躍の推進

女性取締役の起用

## 人財の育成

コンサルタントを起用し、人的資本経営の実現に向けた人財戦略を策定する

# マテリアリティへの取り組み（ガバナンス）

## ステークホルダーとの対話

### 機関投資家との対話

- 決算説明会（第2四半期・第4四半期）
- スモールミーティング（第1四半期・第3四半期）
- 年1回の施設見学会（研究所やグループ会社工場など）
- 年間100件程度の個別IRミーティング

### 個人投資家との対話

- メール等を通じた対話
- 個人株主向け情報発信冊子の発行
- 株主アンケートを実施予定（7月）



財務・非財務情報の統合的かつ一体的な開示に積極的に取り組みつつ  
活動内容のブラッシュアップを図り  
投資家・株主の皆様当社グループの魅力をお伝えしていく

# 農業・農薬の啓発活動

**農薬**はサステナブルな社会を支えるために必要な資材

世界の人口が増え続ける一方、農地の拡大には限界がある中で世界の食料を安定的に生産していくためには農薬が不可欠



- ▶ 現代の農薬は科学的な検証に基づいてしっかりとしたリスク管理がなされている
- ▶ ステークホルダーに対し農薬の必要性・安全性の正しい理解を促進する取り組みを実施

小冊子の発行



小学生を対象に食料生産の過程を通して農薬の役割を伝える冊子を作成し、全国各地の小学校等へ配布している。デジタルブックとしてコーポレートサイトで公開中。

出前授業の実施



静岡県などの小学校で当社社員による出前授業を実施している。子供たちや先生方など教育現場への啓発活動の浸透を通じて様々な世代への波及を目指す。

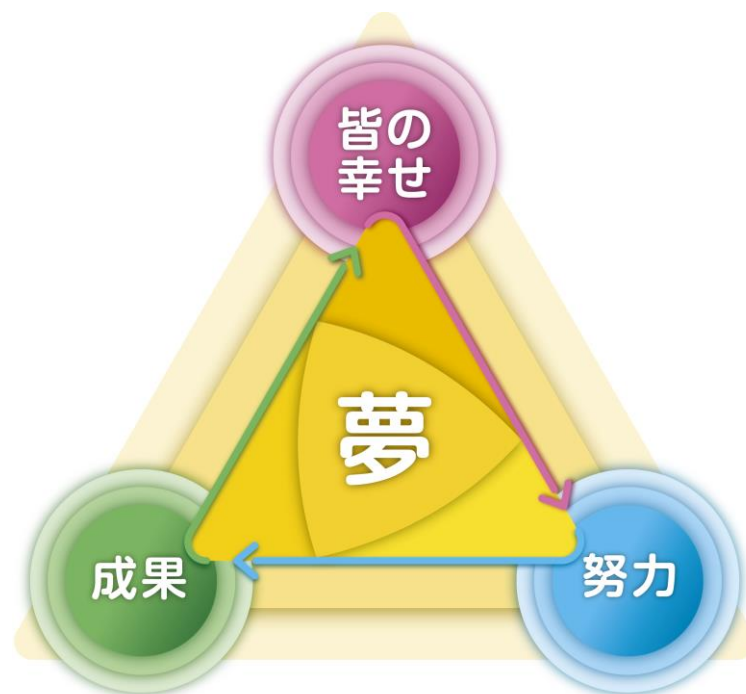
農業・農薬の社会価値を高め、**当社事業への理解促進・企業価値の向上**を図る

## 「夢」と「幸せの三角形」

従業員一人ひとりが「夢」に向かって「努力」し、その「成果」によって達成感・充実感を感じて「幸せ」になり、さらにその拡大を目指していく

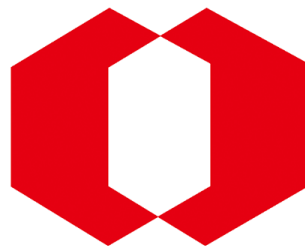
会社としては、経済価値・社会価値を両立した「成果」を目指し  
その先にある、すべてのステークホルダーの「幸せ」を追求

「『夢』と『幸せの三角形』」を個人から地球規模にまで拡大していくことが  
クミアイ化学グループのサステナビリティ経営



ご清聴ありがとうございました。

自然に学び 自然を守る



ワミカ

**本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。**

**万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。**

**弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。**

＜お問い合わせ先＞  
クミアイ化学工業株式会社  
経営管理本部 経営企画部 企画課

弊社IRサイトもご覧ください <https://ir.kumiai-chem.co.jp/>